

3

日本軍ノ北部仏印進駐ニ関スル日仏話合
成立ニ至ル交渉経緯(未定稿)(第二卷目次(6)参照)

552.6. 編輯

秘

日本軍ノ北部佛印進駐ニ關スル日佛交渉ノ経緯概観

支那事變開始ノ後昭和十二年十月佛蘭西政府ハ印度支那經由支那向
 武器輸送ヲ禁止スル旨我方ニ催約セルニ拘ヘラス其後モ事實上佛印
 經由援蔣武器ノ輸送繼續セラレタルヲ以テ帝國政府ハ之カ禁絶ノタ
 メ銳意交渉ヲ繼續シ來リタルモ佛側ハ飽迄輸送ノ事實ナキヲ言ヒ張
 リテ誠意ヲ示サスル依テ我方ハ昭和十三年十月遂ニ自衛上ノ必要措
 置ヲ採ルルニ已ムナキニ至ルバキ旨ヲ佛側ニ通告シ本件解決ニ努力シ
 タルカ歐洲戰爭勃發ノ前後ヨリ佛ノ對日態度好轉シ國交調整ノ希望
 ヲ申出タルニ依リ我方ハ佛國カ支那向ケ武器ノミナラス「ガソリン」
 「トラック」其他蔣政権ノ抗戦力ヲ増スヘキ一切ノ物資ノ佛印經由
 輸送停止ヲ爲スニ於テハ國交調整交渉ニ應スヘシトノ態度ヲ以テ臨
 ミタル處佛側側之ニ應セス依テ昭和十三年末以來雲南鐵道ノ爆撃
 ヲ敢行スルト共ニ情勢ノ推移ヲ見ツツ引續キ武器及一切ノ物資禁絶方
 ノ交渉ヲ續ケタリ然ル處其ノ後歐洲戰局急變シ十四年六月十七日佛
 國ハ對德降服ヲ宣言シ佛國駐在日領事ハ六月十九日ハ降参向對德
 降参ノミニス「ガソリン」及「トラック」佛印經由輸送ヲ一仰停止スルニシ、セシヨ

政府ハ對獨屈服ト同時ニ前記武器及一切ノ支那向ケ物資ノ輸送ヲ停
 止スヘキ旨申出タルヲ以テ我方トシテハ更ニ輸送停止狀況監視ノタ
 メ軍事専門家派遣ヲ要求シ之ヲ承諾セシメタリ十一月二十日ハ監視
 團ハ西原陸軍少將ヲ主任トシテ海軍人員並ニ外務省員四十名ヨリ成
 リ六月二十九日河内ニ到着任務遂行ニ着手シ佛側ハ誠意ヲ以テ國境
 閉鎖ノ實ヲ示セリ

然ルニ對支作戦上ノ必要並ニ支那事變處理促進ノ見地ヨリハ援蔣武
 器及物資ノ輸送禁止ノミナラス進シテ佛印内ニ日本軍ノ據點ヲ設ケ
 更ニ佛印ニ對スル政治上及經濟上ノ優越的地位ヲ確立スルコト佛印
 ノ國際的地位ニ急變ヲ生シタル此ノ際極メテ必要ナリト認メラレタ
 ヲ慶七月ニ入り現地ニ於テ腳踏的交渉ヲ進メタル處當初佛印側ニ於
 テハ日本カ領土保全ヲ尊重スルニ於テハ軍事上及經濟上ノ廣汎ナル
 日本側要求ニ應スル如キ模倣看取セラレタルモ後其ノ態度硬化シ我
 方ノ軍事的要求ハ之ヲ承認シ難シトノ態度ヲ示シタルモ迂余曲折ノ

後結局東京ニ於テ本件交渉ヲ正式ニ行フコトニ日佛間意見一致シ八月一日以來在京佛國大使ヲ相手トシテ交渉ヲ開始セリ
先ツ我方ハ佛國政府カ東亞新秩序建設ニ支那事變處理ニ付キ帝國ト協力シ特ニ差當リ對支作戰ノタメ派遣セラルヘキ日本軍隊ノ佛印通過及佛印内飛行場ノ使用一地上警備兵力ノ駐屯ヲ含ム一ヲ認メ且武器彈藥及物資輸送ニ便宜ヲ供與スルト共ニ經濟的ニハ通商、企業入國等ニ付キ佛本國待遇ヲ許與シ右經濟交渉ハ佛印本國地ニ於テ在列内帝國總領事ラシテ佛印當局ト交渉セシムトキ旨要求セリ 八月十日
日松岡大臣「アンソニー」大使ニ申入リ
右帝國政府ノ要求ニ對シ佛國政府ハ政治問題ニ關スル諒解ニ付テハ右カ佛國ノ体面ヲ傷ケサルモノナラハ日本側要求ノ内容ハ大体之ヲ承認スルノ用意アリ又經濟問題ニ付テハ現地交渉ニ異議ナキ旨回答越シタルカ、八月十日、其ノ後交渉進捗スルニ伴ヒ我軍事の措置ノ行ハルヘキ地點等ヲ明示センコトヲ求メ然ラズンハ佛印全体ノ占

領ヲ許スニ等シトテ強硬ナル態度ヲ示シ交渉難澁ヲ極メタル我方ハ先方ノ懸念ヲ除ク爲地城ヲ北部東京州ニ限定シ且我軍事的要求ノ具体的内容ヲ極秘ニ内示シテ佛側說得ニ努メタルカ更ニ佛側ハ我方ニ於テ佛印ノ領土保全及佛印ニ對スル佛國主權ヲ尊重スルコトヲ必要トスル旨主張シ日本側カ右カ谷ルルニ於テハ佛國側ハ極東ニ於ケル日本ノ政治、經濟上ノ優越的利益ヲ認メ且佛印ニ於ケル日本及日本人ノ經濟的最優越地位ヲ保障スル方法ニ付商議スルノ用意アル旨ヲ明シタルカ我方トシテモ既ニ明治四十年ノ日佛協約中ニ於テ兩締約國ノ亞細亞大陸ニ於ケル相互ノ地位並ニ領土權ヲ保持センカ爲ナル字句ヲ使用シ居ルヲ以テ本件解決ノ爲ニ此ノ際佛印ニ對シ領土的意思圖ナキ趣旨ヲ表示スルニ差支ナキコトヲ折合フコトトシ折衝ノ未茲ニ兩者ノ意見合致シ八月三十日松岡大臣上「アンソニー」大使トノ間ニ大要左記趣旨ヲ内容交渉成立セリ 所謂「松岡アンソニー」協約ナリ

二三字
下のケル

一 佛國政府ハ極東ノ經濟的及政治的分野ニ於ケル日本ノ優越的利益ヲ認ム

一 日本ハ極東ニ於ケル佛國ノ權利及利益特ニ印度支那ノ領土保全及之ニ對スル佛國ノ主權ヲ尊重ス

一 經濟的分野ニ關シ日本及印度支那間ノ交易ヲ増進スルト共ニ印度支那ニ於テ日本國及日本人ニ對シ出來得ル限り最モ有利ニシテ且如何ナル場合ニモ第三國ニ比シ優越スル地位ヲ保障スル方法ニ付速ニ商議ス

一 對支作戦ノ爲ニスル日本軍ノ要求タル東州ニ於ケル日本軍隊ノ佛印通過及佛印内飛行場ノ使用並ニ武器彈藥及物資ノ輸送ニ付テハ佛國側ニ於テ必要ノ便宜ヲ供與スルコトトシ之ガ爲ノ細目ニ付佛印ニ於テ日佛兩軍事當局間ニ至急交渉ヲ行フ

トニキ
トニキ

一 右便宜供與シ要スル費用ハ日本側ノ負担トス

一 日本側ノ戰費ヲ行爲ニ依リ及日本軍隊ノ存在ハ印度支那領内ハ誘致スルコトアルナラバ其ノ敵ノ戰爭ノ行爲ニ依リ印度支那ガセルハ其ノ損害ニ付シテハ日本側ニ於テ賠償ノ責ニ任

大日本帝國政府

一 右軍事上ノ便宜供與ニ付テ要求ハ日支紛争ノ解決ニ
 資セントスルノ趣旨ニ出テ從テ臨時的ノモリニシテ該紛
 争解決セシメタルトキハ消滅スヘキモノトス
 右便宜供與ハ軍事占領ノ性質ヲ經ラフルモノニ非スル
 印度支那ニ境ニ支那領土ニ於テ先日本軍ノ作戦上ノ
 必要ニ嚴限ラレシモノトシ併國軍尙方ノ作戦ニ依リ且其ノ
 監理ノ下ニ行ハルヘシ
 一 右便宜供與ニ要スル費用ハ日本側ノ負担トス
 又日本側自身ノ戦争行爲ニ依リ及日本軍隊ノ存在
 印度支那領内ノ誘致スルモノニ依リ其ノ敵ノ戦争
 行爲ニ依リ印度支那ノ蒙ルベキ損害ニ付テハ日本
 側ニ於テ賠償ス

專ラ
 (國定規程第15条第1項)

佛印邊境
 國境外正印領
 自灼執持癩
 フ冒シテ長ク待
 機ニ我軍隊ヲ
 遂ニ九月五日其
 一部ハ右四日
 軍中協定成立ヲ
 知ラシメテ其ノ
 実施細目協定
 ノ未カ成セリ
 ルニ勃境セル事
 件發生セリ

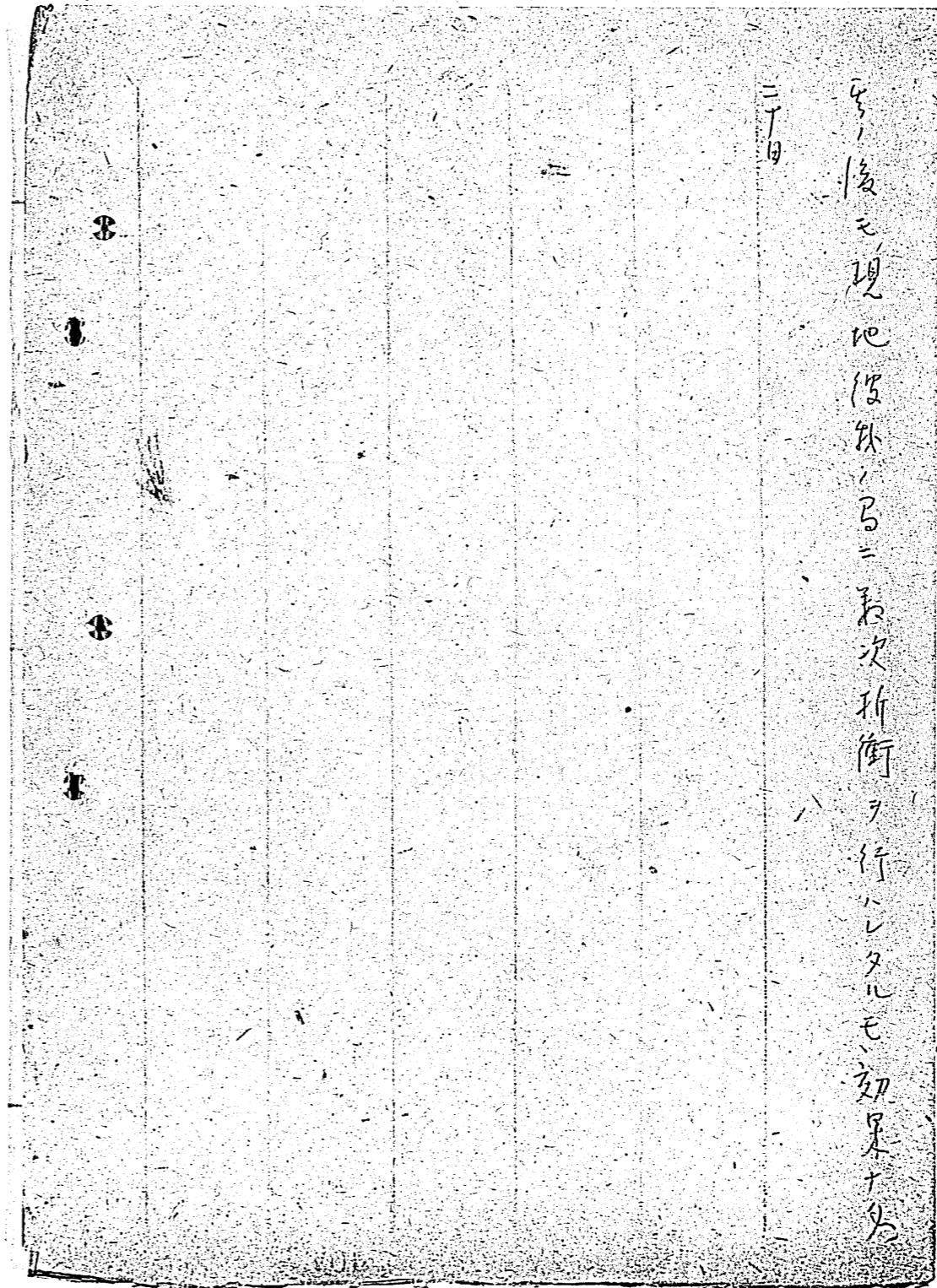
右ニ基キ現地軍事協定締結ノ爲爾來河内ニ於テ日佛軍當局間ニ交渉
 行ハレタル處佛印側ハ種々ノ辭ヲ設ケテ遷延ヲ策シタルモ、我方カ
 相當強硬ナル態度ヲ以テ迅速妥結ヲ圖リタル結果九月四日我軍側代
 表西原少將ト佛印軍司令官トノ間ニ現地軍事協定ノ調印ヲ了シ、更
 ニ右實施ノ爲ノ細目交渉開始セラレタリ
 然ルニ右四日ノ軍事協定成立ヲ知ラサリシ國境附近ノ我一部隊方難
 解ニ依リ九月六日越境セル事件發生セルカハ佛印側ハ四日ノ協定
 ニハ斯カル行爲ハ右協定ヲ無効トスル旨規定シ居ルコトヲ理由トシ
 テ一應交渉ヲ中止シ度旨申出テタリ、現地我軍側ハ右越境力其ノ意
 思ニ非サル次第ヲ釋明シ、又中央ニ於テハ佛國政府ニ對シ現地交渉
 促進方嚴重申入レタルモ、佛印當局ハ依然英、米、支ト策謀シテ遷
 延是レ努メ、更ニ「タイ」國ノ失地回復問題迄モ持出シ、右ハ日本
 側使喚ニ依ルモノナリトテ「タイ」國ヲ抑フル様斡旋方々求メ來ル
 等其ノ態度頗る改善ヲ見ルニ至ラズキ

右ノ結果現地ニ
 於テ種々ノ辭ヲ
 設ケテ遷延ヲ策
 シタルモ、我方カ
 相當強硬ナル態
 度ヲ以テ迅速妥
 結ヲ圖リタル結
 果九月四日我軍
 側代表西原少將
 ト佛印軍司令官
 トノ間ニ現地軍
 事協定ノ調印ヲ
 了シ、更ニ右實
 施ノ爲ノ細目交
 渉開始セラレタ
 リ

然ルニ我軍軍事的要求ハ對支作戰遂行ノ爲一日モ速ニ實現スルコトヲ
 必要トシ而モ前記佛印側態度ニ顧ミ普通ノ交渉方法ニ依リテハ短時
 日中ニ解決ヲ見ルコト至難ナリト認メラレタルニ依リテ我軍側ハ
 テハ九月十三日ハ四相會議決定ニ基キ全月十九日大橋次官ヨリ在京
 佛大使ヲ招致シ我軍ハ八月三十日ノ東京取極及同二十五日佛大使
 ノ次官ニ與ヘタル約言ニ基キ九月二十三日零時(東京時間)以降細
 目協定ノ成否又ハ交渉繼續中ト否トニ拘ラス隨時佛印東京州ノ進駐
 ヲ實施スルコトニ決セリ但シ右進駐ハ日佛間ニ成立セル前記協定ニ
 基クモノニシテ友好的精神ヲ以テ行ハントスルモノナリ右ノ次第ニ
 鑑ミ佛國政府ハ佛印當局ニ對シ速ニ細目協定ヲ妥結スル様嚴重訓令
 セラレタシトノ申入ヲ行ハシメタル事ハ他方最悪ノ場合ニ處スル爲
 佛印在留邦人ヲシテ引上準備ヲ行ハシメタリ
 右如ク細目協定ノ成立手間取リ、北部國境ヨリノ我軍進駐開始ト
 ノ間ニ時間的餘裕充分ナラザリシ等ノ原因ニ依リ二十三日未明一ト

其の後、現地は我が子に敵軍の侵入を許さず、
 二十日、海軍方面、海軍艦隊が在る民を監視し、
 に至りてハ海丸及スライヤ丸に乗船し、西貢方面に在る民は西貢
 港よりアリゾナ丸に乗船し、アリゾナ丸は同日海軍艦隊向出帆
 せり。地方鎮南関方面支那領内に侵入し待機し居たり。
 陸軍方面は細目支隊、停頓し、
 我部隊は海軍の命に及し、二十三日零時を待たず
 二十一日夜頃より仙印領内に進駐を開始し、
 ランソン附近に於て月仙印商會を以て衝突勃発し
 相当の激戦行はれり。而して、
 「スライヤ丸」は二十一日正午（現地時）を期し海軍艦隊向
 出帆せり。右軍艦隊は仙印側はるるに
 出帆せり。





REEL No. A-0270

0260

アジア歴史資料センター

各協約の懸念を以て遂に二十一日午後二時(東京時刻)

彼我軍官向りに細目協定の調印を促すに盡し

(新行) 現以新國境方面に於ける日印と我軍官との交渉は

中央及現地に於ける彼我の折衝並に我軍官部隊の

撤収等により漸く二十五日に至りて鎮靜せり

之より先^{即ち}二十一日帝國軍艦内^{艦上}に於て西原

少将と日印軍司令官代表者らとの間に軍事協定に

関する最終的取極^極成立し我軍官部隊の大部分は

二十五日^{即ち}海防に入港、二十七日上陸の事となりたり

二十七日より開始せられたる海上陸道^{海防}は同日海防に

於て我軍官機よりの爆弾投下事件ありたる外日印側との

るに別段の防備もなかりはなかり

依て^{即ち}我方と在米日國大使との間に打合せありたり

たの如き日印兩國政府共同コミニケ^レを九月三十一日

午後五時(東京時刻)東京及「ワシントン」に於て發表

日本軍佛印進駐ニ關スル日佛協定

北部

昭和十五年七月
至同 年九月

所謂松岡・アノール協定

該協定ニ至リ

未定稿



「カトルー」佛印總督ノ日佛印間政治協定

締結方希望表明

昭和十五年六月下旬佛印經由蔣回物資輸送禁絶状況觀察ノ為派遣

セラレタル我軍軍事專家ヲ中心トスル監視員一行ノ佛印到着以來

「カトルー」佛印總督及佛印軍司令官ハ誠意ヲ以テ右輸送禁絶ヲ

實行スベキ旨及右監視員ノ任務遂行ニ協力スベキ旨ヲ繰返シ言明

シ、佛印内各地へ派遣セラレタル監視員ヨリノ報告ニ依ルモ右輸

送禁絶ハ事實勵行セラレ居タルガ佛印當局ニ於テハ更ニ(イ)不取敢

七月七日以降一ヶ月間支那ヨリノ輸出品ハ佛印流入ヲ禁絶シ(ロ)我方

監視員用無線電信機ノ設置及海防海口間海底電線敷設ヲ承認スル

等能フ限リ好意ヲ示サント努メタリ

斯クノ如ク我方ニ對シ極力妥協的態度ニ出テ來レル佛印總督ハ次

テ右監視員ノ首班タル西原少將等ニ對シ若シ日本ガ佛印ノ領土保

全ヲ尊重スルニ於テハ佛印トシテモ軍事的ニハ日本ト對蔣防守同

政權向

監視

盟ヲ結ビ現在ヨリモ廣汎ナル範圍ニ於テ積極的ニ協力シ得ルト共
ニ經濟的ニハ日本ノ佛印ニ對スル輸出増進及企業的發展等ニ關シ
好意的取計ヲ爲スノ用意アルニ付日本政府ヨリ右趣旨ノ協定締結
方提議セラレ度ト申出タルガ我軍カ對支作戰重要視スル日本軍
隊ノ佛印通過及佛印間飛行場使用等ニ對シテハ佛印總督トシテハ
其ノ權限外ノ事項ナリトシ日佛政府間ニ正式ニ交渉セラレ度シト
言ヘリ

ニ委(佛印總督ノ對日勸掛ケニ對スル佛本國政府ノ態度)

七月十五日佛國外相ハ其ノ求メニ依リ往訪セル澤田大使ニ對シ過
般西原少將「カトル」總督會談ノ際談論ハズミ日佛政治同盟關
係ニ迄及ヒタル趣ナルカ同少將ハ物資輸送禁絶監視ノ爲ニ派遣セ
ラレタル者ト了解シ居リ佛印總督モ右ノ如キ政治問題ヲ討議スル
權限ハ有シ居ラサルヲ以テ双方トモ行キ過キノ感アリ然レバトテ
自分ハ右ニ對シ不滿ヲ言フ意思ハ全然無ク寧ロ其ノ程度迄兩者カ
胸襟ヲ開キテ語り合ヒタルコトヲ喜ビ居ル次第ニシテ自分ハ從來
印度支那銀行ノ關係ヨリ極東ニ關シテハ日本ト提携スルノ外無シ
トノ説ヲ持シ居レリ然ルニ兩三年來日佛交渉ハ實際ヲ離レタル理
論闘争ノ爲紛糾ヲ重ネ來リ今日ハ將ニ此ノ紛糾ヲホゴス爲虛心坦
壤ニ語り合フベキ時機ニ到達セリト考ヘ居レリ即チ先ツ第一ニ日
本、佛印間ノ有無相違ノ經濟關係ヲ益々緊密ナラシメルコト其ノ
二ハ政治關係ノ緊密化ヲ圖ルコトニシテ、今般佛側ニ於テ鐵道會

社ノ損失ヲ忍ビテ雲南鐵道武器輸送禁絶ノ大英斷ニ出デタルノモ
支那側ノ怨ヲ買フ如キハ之ヲ意ニ介セス極東ニ於テハ日本ノミト
話合ヒ得ベシトノ自分ノ信念ヲ貫キ度キ希望ノ表レナルカ何時迄
モ無制限ニ鐵道側ニ損失ヲ繼續セシムル譯ニハ行カズ實ハ日本側
ニ於テモ之ガ代償ノ考慮ヲ願度キ次第ナリ就テハ右自分ノ意ヲ
キ氣持テ日本政府ニ傳ヘラレ日本側ノ意向ヲ確メラレ度シト
ナルニ依リ大使ヨリ西原「カトル」會談ニ付テハ未タ公報ニ終
シ居ラサルカ經濟問題ニ付テハ先般谷次官ト「アンリ」大使ト
ノ間ニ現地ニ於テ交渉ヲ進ムル趣旨ノ話合アリタルニ鑑ミ日本政
府ニ於テハ佛印側ト交渉ノ爲代表團ヲ佛印ニ派遣スル積リナラ
ト了解シ居ル處佛側ニ於テハ右ニ拘ラス佛本國ニ於テ話合ヲ進メ
ントセラルルモノナリヤト尋ネタルニ同外相ハ細目ノ問題ハ現地
ニ委セテ可ナルモ經濟、政治ノ双方ニ關聯アル大筋ニ付テハ佛本
國ニ於テ話合ヲ進メ度シト答ヘタリ

所謂
偶
新體制同敷
ヲ理由トシテ米
内閣(外相有田
ハ即ち)ハ總特
任ノ已ハ無キニ
至リタルヲ以テ

本問題ニ對スル我方ノ方針決定
右ニ付我方ニ於テハ陸海軍當局ト協議ノ結果佛側ノ提議ノ成案
ヲ得タルガ具體的交渉ハ後任外務大臣ノ決裁ヲ經タル上政治軍事
協定ニ付テハ主トシテ東京ニ於テ、經濟協定ニ付テハ河内ニ於テ
行フコトニ方針ヲ決定シ七月下旬不取敢左ノ如キ訓令案及説明案
ヲ在河内鈴木總領事ニ送付スルト共ニ佛本國政府ニ對シテハ澤田
大使ヲシテ我方態度ハ新内閣(七月二十一日米内閣代リ第一
次近衛内閣成立)ト外交方針決定ヲ俟ツテ定マルベキ旨ヲ申入レ
シメタリ(因ニ七月二十一日近衛内閣成立セリ外相松岡洋
右也)

以下
三三
ト
スト

(一) 訓令案
佛印トノ政治、軍事協定及經濟協定ニ關スル件

一 佛印トノ政治、軍事協定及經濟協定ニ關スル方針

陸海軍當局ト協議ノ結果、我方ヨリ佛側ニ對シ左記内容ノ政治、軍事協定及經濟協定締結方ヲ提議スルコトトシ政治、軍事協定ニ付テハ、當地ニ於テ「アンリー」大使トノ間ニ交渉ヲ行ヒ經濟協定ニ付テハ貴官ト佛印總督トノ間ニ交渉ヲ行フベキコトニ決定セリ。依テ貴官ハ委細別紙(2)號説明ニ依リ御含ミノ上經濟協定ニ付テハ直接總督ト交渉ヲ開始セラレ度ク政治、軍事協定ニ付テハ西原少將ヲ輔佐シ佛印總督ニ對シ我方意向ヲ徹底セシメラルルト共ニ總督ヨリ本國政府ニ我方要求受諾方ヲ進言セシムル様極力御努力アリ度ニ協定ノ内容

(一) 政治、軍事協定

(1) 佛印ハ東亞新秩序建設並ニ支那事變處理ニ付帝國ト協力スベク、特ニ差當リ對支作戰ノ爲派遣セラルベキ日本軍隊ノ佛印通過及佛印内飛行場ノ使用(之ニ伴フ地上警備兵力ノ駐屯ヲ

含ム)ヲ認メ右日本軍隊用武器彈藥其ノ他ノ物資輸送ニ必要ナル各種便宜ヲ供與ス

(2) 日本ハ佛印ノ領土保全ヲ尊重ス

(二) 經濟協定

芳賀事務官携行ノ「對佛印經濟通商交渉方針ニ關スル件」ノ別紙甲號ノ通(右別紙「中」ノ「營業」ニハ銀行業ヲ含ムモノトス)

以上

(二) 説明案

佛印トノ政治軍事協定及經濟協定ニ關スル件

一 帝國ハ現下ノ佛國ノ地位及日佛關係ニ鑑ミ此ノ際佛印ヲシテ東亞新秩序建設ニ支那事變處理ニ對スル協力ヲ約セシムルト共ニ右目的ノ爲差當リ本件政治軍事協定及經濟協定ノ内容タル帝國ノ要求ヲ容レ、軍事、經濟兩方面ニ於テ帝國ヲ支持セシムルコトヲ期スル次第ナリ而シテ軍事的ニハ重慶政權ヲ壞滅セシムル爲單ニ佛印ヲシテ蔣向物資輸送ヲ停止セシムルニ止マラス、更ニ重慶政權ニ對スル作戰ノ必要上別紙(附)號ニ(イ)ノ要求ヲ提示スル次第ナリ

ニ 佛印ニ於テハ其ノ領土ノ安全ニ付危懼ノ念ヲ有シ、我方ヨリ領土保全ノ尊重ニ關スル言明ヲ取付ケンコトヲ切望シ居ルニ鑑ミ、何等カ適當ノ形式ニ依リ右趣旨ノ言明ヲ與ヘ我方ガ佛印ノ領土ヲ侵略スルノ意ヲ表示セントスル次第ナルガ右ハ我方ガ佛印ノ領土ヲ侵略スルノ意圖ナキコトヲ表明スルモノニシテ第三國ノ侵略ニ對シテ迄モ佛印

ノ安全ヲ保護スベキ義務ヲ負フモノニ非ズ、尤モ右第三國ノ佛印侵略ハ東亞新秩序建設ノ障礙タルニ依リ我方トシテハ之ヲ默視シ得ザルコト勿論ナルモ、右ニ對シ執ルベキ措置ハ我方獨自ノ立場ヨリ決定スルモノナリ

佛側ガ海南島、新南群島、西沙島等ノ問題ヲ持出ス場合ニハ右ハ佛印ニ關スル本件協定ト直接關係無キコトヲ指摘シ一蹴スベキコト勿論ナリ

萬一佛側ガ政治軍事協定ノ内容タルベキ我方要求ヲ全面的ニ拒否スル場合ニハ我方トシテハ佛印領土保全ノ尊重ヲ言明スベキ限リニ非ザルコト勿論ナルガ我方ノ執ルベキ態度ハ先方ノ出方及國際情勢等ヲ見タル上之ヲ考究決定スベシ

經濟協定ハ我方ト佛印トノ經濟提携ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノニシテ我方ニ於テ佛國及其ノ他ノ國ノ利益ヲ全然無視シ佛印ニ關スル經濟的利益ヲ獨占セントスルガ如キコトヲ意圖スルモノニ非

ス。然レドモ我方ハ通商、企業、入國等ニ關スル事項ニ付佛國、佛國人及佛國物資ト同様ノ待遇ヲ要求スル次第ニシテ右ハ普通ノ通商條約ノ内容ヲ超越スルモノナルニ依リ佛印側ガ難色ヲ示スコトハ豫想セラルル所ナルモ我方トシテハ政治軍事協定ニ依リ佛印領土保全ノ尊重迄モ言明スル次第ナルヲ以テ右我方經濟的要求ハ最大限度ニ貫徹スルヲ要スルコト勿論ナリ尤モ經濟協定ニ關スル交渉ハ其ノ性質上政治軍事協定トハ別個ニ之ヲ行フモノトス。

六(イ)政治軍事協定ノ交渉當事者ノ問題ニ付テハ、佛印總督ノ言モアリ且本件協定ハ領土保全ノ如キ重要ナル政治問題ヲ含ムモノナレバ當地ニ於テ帝國政府ト「アンリ」大使トノ間ニ交渉ヲ行ヒ、協定ヲ締結スルコトトス但シ其ノ形式ハ追テ考慮スルモノトス。

(ロ)經濟協定ニ關スル交渉ハ貴官ト佛印總督トノ間ニ於テ之ヲ行ヒ交渉成立ノ上ハ、樞密院ノ關係モアルニ付佛印總督ヨリ貴官宛書翰ヲ以テ佛印側措置ヲ一方的ニ通告シ貴官ハ之ヲ「テイク・ノ」

ト「スル形式ニ依リ、爾後ノ手續ハ當地ニ之ヲ移シ然ルベク措置スベシ」

(註、經濟協定ノ具體的細目ニ關スル附屬書類省略)

以上

政治軍事協定ニ關スル對佛交渉開始（八月一日松岡大臣「アシリ」大使會談「日佛第一次會談」）
 八月一日松岡外務大臣ヨリ「アシリ」大使ノ來訪ヲ求メ帝國政府ニ於テハ過般來佛印ニ於ケル蔣向物資輸送禁絕措置ヲ多トシ居ル處佛領印度支那政府ガ帝國ノ東亞新秩序建設及支那事變處理促進ノ爲政治的、軍事的並ニ經濟的ニ更ニ廣泛ナル範圍ニ就テ協力センコトヲ要望スル旨ヲ前置キシ政治的、軍事的協力問題ニ於テハ註 經濟問題ニ關スル部分ハ別ニ作成シ日佛印經濟交渉「アシリ」參照「其ノ具體的内容トシテ對支作戰ノ爲派遣セラレベキ日本軍隊ノ佛印通過及佛印内飛行場使用」之ニ伴フ地上警備兵力ノ駐屯ヲ含ム」ノ容認並ニ右軍隊用武器彈藥其ノ他ノ物資輸送ニ必要ナル各種便宜供與ヲ要求スルト共ニ右軍隊通過等ニ關スル要求ハ支那事變處理ノ目的トシ蔣政權打倒ノ爲必要ナル範圍内ニ限ラルベク何等佛印領土ヲ侵略セントスル意圖ニ基クモノニ

非ザル旨附言シ更ニ本件ハ重要ナル政治問題ナルニ依リ東京ニ於テ交渉ヲ進メ度ク且事ノ緊急性ニ鑑ミ至急右ニ對スル佛國政府ノ回答ヲ得度キ旨申入レタルニ大使ハ右日本側要求ハ日本スラ支那ニ對シ宣戰ヲ布告シ居ラザルニ中立的立場ニ在ル佛國ニ對シ對支宣戰布告ヲ要求スルニ等シト述ベシニ依リ大臣ヨリ宣戰布告ノ有無ノ如キハ問題トナラズ佛國ガ支那ニ於テ大規模ノ戰行爲行ハレ居ル現實ノ事態ヲ直視センコトヲ求ムルニシテ我方トシテハ進シテ佛國ノ中立的地位ヲ侵スノ意思ハ無キモ今次我方要求ハ軍事上ノ絕對的必要ニ基クモノナルニ依リ若シ佛側ガ之ヲ容レザル場合ニハ或ハ形式ニ於テモ中立ヲ侵スコトニナルヤモ知レズ斯クノ如キハ我方ノ最モ好マザル所ナルニ依リ今次申入ヲ爲ス次第ニシテ又一九〇七年ノ日佛協定ハ之ニ依テ受ケタル佛印ノ利益ニ對比シ我方ニハ殆ド對償ナキニ拘ラズ日本ガ之ヲ應諾シタルト同様ノ精神ヲ以テ今回ハ佛側ニ於テ我方要求ヲ容レラレ度ク右ハ日本

ガ好シデ爲スモノニ非ズ情勢ガ日本ヲシテ要求セシムルモノナリ
ト説明シ且方今ハ何トモ得依ノ知レヌ真態頻發スル世ノ中ニテ今
次日本ノ要求ニ應シタリトテ必スシモ宣戰布告ヲナスモノトモ解
スルノ要トナルベシト説キタルニ大使ハ御説明ニハ一應納得セラ
ルル點アルモ佛印ニ關スル日本側要求ハ次々ニ増大スルノミニシ
テ今次ノ要求ヲ容ルレバ更ニ何ヲ要求セラルルヤ測リ難シト述ベ
居タルガ兎モ角本國政府ニ取次グベシトテ引取りタリ

八月一日ノ我方第一次申入ニ對スル佛側回答（八月六日松岡大臣
「アソリ」大使會談）日佛第二次會談）
我方申入ノ内容ヲ知リタル佛政府ハ在佛澤田大使ヲ通シ對戰
ノ敗北ニ苦杯ヲ嘗メ^{シカラス}本陣^{シカラス}方面ヲ失ヒ居ル佛國ヲ更ニ踏付クルガ如
キ今次日本側要求ハ其ノ當之ヲ受諾シ得ス其ノ理由ハ日本側要求
ノ内容ノ問題ニ非ズ形式ノ點ニ在リ即チ佛^側シテハ右内容ニ付テ
ハ大体異存ナキモ唯日本側ヨリ押付ケラレタル如キ形式ニモズ相
互ノ話合ニ依リ協定ニ到達シタリト云フコトニシ度ク又佛側カ本
件ニ關シ日本側ニ求メ度キ對價トシテハ別ニ多クヲ期待セズ例ヘ
バ東京州ニ於ケル日本車ノ駐屯等ハ一時的措置ニ過キサル旨ヲ日
本側ニ於テ約^セラルルトカ或ハ日佛ノ友好關係ハ日本側モ願
念スル所ナルニ依リ今後トモ日本佛印間ノ經濟的・政治的善隣關係
ノ増進ヲ希冀スル旨約^セラルルトカ兎モ角佛國ノ主權ト面子
トヲ尊重シタル形式トスル趣旨ニ於テナフバ速ニ協定ヲ成立セン

メ得ベシトテ佛國政府ノ態度ヲ表明シ來ルガ八月六日在京佛大使ハ松岡大臣ヲ來訪本國政府ヨリ回訓ニ接シタリトテ附屬第一號ノ如キ書物ヲ讀ミ上ケ結局日本側要求ハ之ヲ承諾スルモ其ノ形式ニ付テハ佛國側ノ体面ヲ損セザル如キモノトセラレ度ク之カ爲協定ノ形式ニ付テハ同大使ト次官トノ間ニ打合ヲ遂グルコトトシ度シト述ベ大臣ハ右ニ對シ同意ヲ與ヘタリ尙其ノ際大使ハ日本側要求ハ佛國ノ体面ヲ蹂躪スルモノナリトカ取ハ最後遺牒的ナリトカ快返シタルニ依リ大臣ヨリ我方ニ於テハ佛國ノ体面ヲ毀損スルガ如キ意向ハ毛頭ナク否特ニ之ヲ避ケント欲シタルバコソ形ノ上ニ於テモ右ノ如キコト無キヲ期スル爲今次申入ヲ爲シタル次第ナリト説明セリ

六 政治軍事協定ニ關シ我方ヨリ佛側ニ提示セル第一號書物(松岡)

八月九日及十日外務次官在京佛大使會談

右松岡大臣「アンソール」大使會談ノ結果ニ基キ八月九日外務次官ヨリ「アンソール」大使ノ來訪ヲ求メ附屬第一號及第三號ノ如キ

政治軍事關係ニ關シ提示シ、大使トノ間ニ左ノ如キ會談行ハレタリ

次官 本件我方要求ハ軍事上ノ絕對的必要ニ基クモノニシテ且ツ其

ノ緊急性ニ鑑ミ能フ限り速ニ貴方ヨリ右文案ニ異議ナキ旨御

回答ヲ得度
大使 日本側要求ノ内容漠然タリ、此ノ儘ニテハ「フランク・チエ

ツクレ」ヲ渡スニ等シ
次官 要求ノ内容ハ明瞭ナリ、一、對支作戰ノ爲レト明記シアリ、何

等懸念セラルヘキコトナシ
大使 作戰上ノ必要ト云フ名目ニ依リ種々ノ要求ヲ續々持出サレ際

限無キコトトナルベシ。強ヒテ本國政府へ取次ゲト云ハルレバ左様致スベキモ政府方此儘ニテハ到底承諾セザルベキコトハ明カナリ
次官 右ハ領土ノ不侵略ヲ謳ヒ居ラザルコトヲ意味セラルルヤ
大使 然ラズ。此ノ案文ノ儘ニテハ佛印内ノ何處ニテモ軍隊ヲ通過

飛行基地ノ使用ヲ要求セラルル危険アリ西貢一カソボヂヤニ邊ニキ上陸スルヤモ知レズ。仍テ右地點ヲ明示セラレ度シト云フニ在リ

次官 此ノ案文ハ原則ヲ示シタルモノニシテ細目ハ現地交渉ニヨリ決定シ得ベシ

大使 細目ヲ現地交渉ニ譲ルヲ好マズ貴案ニ依レバ日本軍ハ種々ノ要求ヲ續々持出サレ佛印全部ガ處分セラルルモ致シ方無キコトトナルベシ

次官 對支作戰ノ爲ト明記シアリ。我方ニ於テ之ヲ濫用スルノ意思無キコトハ云フヲ待タザル所ナリ。

大使 其ノ點ニ付テハ外務大臣モ此ノ前ヨリ云ヒ居ラレ、日本側ニ右ノ如キ意思ナキコトハ自分モ了解シ居レリ。然シ實際問題トシテ、此ノ儘約束スレバ日本側ガ如何ナル要求ヲ次々ニ持出サルルヤ測ラレス。此ノ點ニ付テハ何人モ保給シ得ズ
就テハ外務大臣ニ本日會談ノ模様ヲ御報告ノ上再考セラレ度ク、其ノ結果是非トモ此儘ニテ本國政府ニ請訓シ與レト云ハルルナラバ此ノ儘電報スベキモ、其ノ結果ハ政府ハ到底此儘ニテハ承諾シ得ザルベシト思考ス(以下經濟問題ニ干スル會談省略)
次 翌十日更ニ外務次官ヨリ「アンリー」大使ノ來訪ヲ求メ九日

「佛領印度支那一トシキン」州ヲ通過シ同州内ノ飛行場ヲ使用」ト書キ改メタル案文ヲ提示シテ大使トノ問ニ左ノ如キ會談行ハレタリ

大使

「トキンキン」州トセラレテモ、佛側トシテハ依然トシテ「ト
ンキン」州ニ關スル「ブラング」ヲ發行スルニ等
シク、日本軍隊ニ何ヲ爲サレテモ拒否シ得サルコトトナルベ
シク右ハ「フエア」ニ非ズ、此ノ種要望ヲ持出サルルカラニ
ハ其ノ内容ヲ今少シ明確ニセラレ度シ

次官

貴大使ノ氣持ハ諒解シ得ルモ、日本軍隊ガ如何ナル地點ヲ通
過シ又如何ナル飛行場ヲ使用スルヤハ、軍略上ノ機密ニ屬シ
豫メ言明シ得ズ、此ノ點ハ貴大使ガ如何ニ追究セララルモ對
支作戰ノ機密保持上絶対ニ應ジ得ズ

大使

貴方ハ佛國政府ヲ信用セラレザルヤ

次官

本件ハ普通ノ機密事項トハ異リ、軍以外ニハ絶対知ラサレサ
ルコトナリ、然シ乍ラ日本軍隊ガ佛印ニ入レバ何シ佛印官憲
ノ協力ヲ得サレバ事ガ運バ、故自然其ノ際日佛印兩官憲間ニ
細目ノ話合ガ行ハルルコトトナルヘシ、今貴大使ニ日本軍隊

大使

如何ナル地點ヲ通過シ、又如何ナル飛行場ヲ使用スルヤヲ
申入レ、若シ貴國政府ガ何處ハ可ナリ何處ハ不可ナリ等ト言
ハルレバ、我軍事行動ヲ不可能ナラシムヘク、其レデハ折角
佛側ガ主義上我方要望ヲ容レラレタル價值ガ無クナルベシ
且主義上應諾セラレタル以上、軍略上ノ機密事項迄モ知ラセ
ト云ハルルハ、行過ギト云ハサルベカラズ、然シ貴大使ガ飽
ク迄モ之ヲ知ラセト云ハルルハ、
貴大使ト是レ以上議論スルモ無益ナルニ付、兎ニ角本國政府ハ
我方要望ヲ其ノ儘傳達セラレ度シ

次官

其レハ當然ノコトニシテ、然ルカ故ニ交渉ヲ行ヒ得ル次第ナ
リ、貴國政府ガ本件我方要求ヲ審議セララルルニ當リ特ニ念記
セラレタキコトナリ、
我方カ東亞新秩序建設ノ爲非
當ナル努力ヲ爲シツツアリト云フコトナリ

大使 東亞新秩序ナル語ニ依リ具體的ニ何ヲ意味セララルルヤ
 次官 之ヲ明カニスル爲ニハ詳細説明ヲ要スルモ第一言以テ云ハ
 東亞ニ於ケル日本ノ安定的優越的地位 (attaining and cementing
 + stability and cement power)
 確立スルコトニ在リ 日本ト支那トハ隣
 國ニシテ友好關係ニテ進ムノ要アルコトハ御承知ノ通ナルカ、
 蔣政權カ存在スル限リ障礙タルニ依リ我方トシテハ萬難
 ラ排シテ蔣政權打倒ニ邁進シソツアリ而シテ此ノ努力ニ對シ
 佛國ガ協力セラレンコトヲ要望シ居ル次第ナリ 支那事變ヲ
 一日モ速ニ處理シ東亞ニ於ケル恒久的の平和ヲ確立スルコ
 トニハ佛國モ異存無カルヘシ 其ノ爲ニハ一日モ速ニ蔣政
 權ヲ潰滅セシムルコト必要ニシテ今回我方ハ佛印ニ道ヲ借リ
 テ之ヲ行ハントシ居ル次第ナリ 若シ蔣政權ニシテ既ニ崩壞
 シ居タランニハ、貴方ニ對シ斯カル要求ヲ持出サスシテ濟ミ
 タルナルヘキナルモ、蔣政權ハ今猶抵抗ヲ續ケ居ルニ依リ我

方トシテハ本意作ラ右要求ヲ貴方ヘ申入レサルヲ得サル次
 第二ニシテ此ノ點貴方ニ於テモ特ニ考慮セラレシコトヲ希望ス
 一ト述ベタルニ大使ハ相當納得セル様見受ケタリ 今回ノ我
 方要求ハ右ノ如キ事情ニ基クモノニシテ何等佛印ノ領土侵略
 等他意アル次第ニ非ス 貴國政府ヘ本件公案文ヲ傳達セラル
 ルニ當リ本官カ只今續々申述ベタル諸點ヲモ併セ傳ヘラレ度
 ク、佛國政府ガ大層の見地ヨリ我方要望ヲ其ノ儘承諾セラレ
 シコトヲ希望ス
 大使 (右申出ノ傳達方ヲ承諾セリ)

我方第一次交渉案ニ對スル佛國回答

(八月十五日公岡大臣「アンリイ」大使會談)

八月十五日「アンリイ」大使公岡大臣ヲ來訪、本國政府ノ訓令ニ基キ右我方第一次交渉案ニ對シ回答スル次第ナリトテ附屬第
④號ノ如キ管キ物ヲ讀ミ上ゲタル後大臣トノ間ニ左ノ如キ
會談行ハレタリ

大臣 貴大使ハ先日本大臣ニ對シ佛國ハ原則トシテ日本側要求ヲ應諾スル旨述ベタレタルニ非ズヤ

大使 日本側要求ノ全部ヲ承諾ストハ云ハズ
大臣 元日確ニ貴大使ヨリ佛國政府ハ佛印ニ關スル日本側軍事的要求ハ主義トシテ之ヲ應諾スルニ吝ナラザルモ唯佛國ノ体面ノ立ツ如キ形式ヲ日本側ニ於テ考慮セフレ度シトノ趣旨ヲ回答セフレタリト思考ス

大使 其レハ誤解ナリ本使ハ佛國側トシテ承諾シ得ル限度ニ於テ日

本側軍事的要求ハ之ヲ應諾スベシト云フ趣旨ヲ述ベタル積リナリ

又日本側軍事的要求ハ軍艦ノ通過、飛行場ノ使用其ノ他廣汎ナル便宜供與ニ關スルモノニシテ、之ヲ其ノ儘承諾スルハ日本ニ對シ白紙手形ヲ渡スニ等シ、佛國側トシテハ先ヅ日本側ヨリ領土保全ニ關スル約束ヲ取付ケ、安心ヲ得タル上日本側要求中佛國トシテ承諾シ得ルモノハ之ヲ承諾スル豫取計ヒ度キ次第ナリ

大臣 其ノ點ニ付テハ、先日本大臣ヨリ今次ノ我方軍事的要求ハ佛印ノ領土ヲ侵略セントスルガ如キ意圖ニ基クモノニ非ザル次第ヲ明確ニ申上ゲタル筈ナリ

大使 領土ニ關スル保障ヲ取付ケズ、又日本側要求ノ内容ヲ豫メ明確ニ限定セザレバ、假令東京州丈ナリトモ一旦日本軍ガ入りタル後ハ佛印全体ガ日本軍ニ死命ヲ副セラルルコトトナルベ

大臣

我方要求中ニハ「對支作戰ノ爲」ト明記シアリ日本軍諒ガ如何ナル地點ヲ通過スベキヤ等ハ貴方ニ於テモ自ラ分ルベキ等ナリ、從ツテ佛印全部ガ日本軍ニ依リ占領セラルベシ等ノ懸念ハ無用ナリ

然ルニ佛國側ガ本大臣ノ確言ヲ信セス此ノ上逡延の態度ヲ續ケラルル限り是レ以上話合フモ無益ニシテ且ツ我方ノ軍事的要求ハ急ラ要スルモノナレバ、話合ヲ打切り我方トシテ必要ナル軍事行動ヲ取ルノ外ナキニ至ルヤモ圖ラレズ然レドモ是レ日本政府ノ好マザル所ナルト共ニ日本軍モ之ヲ欲セザルモノナルコトヲ本國政府ニ傳達アリ度シ

大使

日本側要求ニ應ズルトセバ將入軍諒モ佛印ニ入り來リ佛印ハ日支戦鬪ノ香ト化スベク甚ダ迷惑ナリ

大臣

今更斯ノ如キコトヲ云ハルルハ不可解ナリ我ニ主義上日本軍

大使

(右ヲ諒承シ辭去セリ)

ノ通過ヲ應諾セラレタルトキ日支兩軍ガ佛印内ニ於テ衝突スルガ如キコト必ズシモ無キニ非ルベキハ豫想セラレタル筈ナリ
抑々我方ハ東亞ノ恒久的平和確立ノ障礙タル將政權打倒ノ爲萬端ヲ排シテ進進シツツアリ而シテ石平和ノ確立ハ佛國ニ取りテモ利益ナルベク從テ其ノ爲ニ必要ナル將政權打倒ニ協力方ヲ求メ居ル次第ナリ

要スルニ今次我方ノ要求内容ハ佛國側ガ承諾セラルルト否トニ拘ラズ、至急之ヲ實行スルノ要有ルコトニハ變リ無キモ、合意ニ基カズシテ石軍事行動ヲ取ルコトハ我方ノ好マザルコトナルニ依リ、貴方トノ話合ニ依リテ目的ヲ達成セントシツツアル次第ナルコトヲ篤ト考慮セブレ、大同的見地ニ立チテ至急我方要望ヲ其儘受諾セラルル様本國政府へ傳達アリ度シ

(尙書談トシテ大臣ヨリ元來佛印領土ノ安全ハ一九〇七年ノ日佛協定ニ依リ長年ニ亙リ事實上保障セラレ來レル次第ニシテ若シ日本ガ右協定ノ締結ニ應ゼザリシトセバ佛印ノ領土ハ今日迄ニ如何ナレルヤセ圖フレズ然ルニ日本ハ之ガ締結ニ應ジタリ仍テ今回ハ佛國側ガ我方ノ要求ニ應スベキ筋合ナリト述ベタリ)

ハ我方第一交提案ニ對スル佛側第一交提案並ニ我方第二交提案

八月二十日在京佛國大使ハ松岡大臣「アシリー」大使會談

趣ヲ以テ附屬條約ノ書き物及其ノ趣旨ヲ基礎トスル附屬條約ノ本條本文ヲ提示セリ大臣ハ右ニ付佛國政府及大使ノ努力ヲ謝スルト共ニ佛國側申出ニ付キテハ我國ニ於テ右書き物及英文ヲ讀取セル上意見ヲ述ブベキ事今一言談歴キハ右ニハ經濟問題モ含マセアルモ軍事問題ハ急ヲ要スルニ付經濟問題ニ先ニ解決スルコトト致シ尤モ軍事問題ノ細目ハ現地ニ於テ討議セシメテ可ナリ尙本件協定方式ノ詳細ニ付キテハ次官等ヲシテ貴大使ト本日中ニモ交渉セシメ應ント述ベ尙我方ニ於テ用意セル軍事問題ニ關スル附屬條約六號ノ一及二ノ交換文案ヲ提示シタルニ佛國大使ハ佛側提案ガ佛國ノ面子ヲ害セス「フェア」ナル取極メナルコトヲ述ベ居タルガ更ニ大臣ハ軍事問題ノ早急解決ノ爲時間ヲ「セーヴ」スル邊、經濟問

題ヲ切り離スノ要ヲ力説シ、又佛國案ニ依レバ經濟問題ニ付テハ盟
ニ日本ノ極東ニ於ケル優越的利益又ハ佛印ニ於テ第三國ニ比シ優越
セル地位ヲ日本ニ認ム云々トアルノミニテ我方ノ佛本國待遇要求ト
ハ大ナル距タリアリ若シ佛國側ガ斯カル案ヲ固執セラハルルニ於テハ
交渉ハ再ビ「デツドロツク」ニ陥ルベシ經濟問題ニ付テハ貴方ヨ
リ我方ノ佛本國待遇要求ニ出來得ル限り應ズル機現地交渉方訓令ス
ベキ旨回答セラルルノ途モアルベシト思考スルガ、何レニセヨ軍事
問題先決ノ要アル旨ヲ主張シ置キ

⑦

九我方第三次本據本文案（八月二十日夜大橋次官「アンリー」大使
會談）

我方ニ於テハ早速右佛側對案ヲ検討シタル上二十日夜更ニ大橋次
官ヨリ「アンリー」大使ノ來訪ヲ求メ西歐亞局長同席ノ下ニ次官
ト大使トノ間ニ左ノ如キ會談行ハレタリ

次官ノ佛國側提案ニハ日佛協定等迄モ持出シ居ラルルガ右協定締
結當時トハ事態一變セル今日斯カルモノヲ持出サルルコト
ハ本件ノ解決ヲ徒ニ紛糾セシムルニ過ギズ
大使ノ右ニ付テハ寧ロ松岡大臣ヨリ言出サレタルニ依リ之ヲ基礎
トシテ提案セル次第ナリ
次官ノ大臣ハ議論ノ途中ニ於テ、日本ガ佛印ノ領土ニ對シ侵略的
意圖ヲ有セザルコトハ過去ニ於テ斯カル協定ヲ締結セル精
神ニ鑑ミルモ明カナリトノ點等ヲ示ス爲メ觸ラレタルニ過
ギズ



次官、右ハ大ナル誤解ナリ却テ佛國側ニ於テ遷延策ヲ講ゼントセラレツツアルニ非ズヤトノ疑惑ヲ懷カシム

我方ハ更ニ其ノ後佛國側ノ希望ヲ觀ミ本件軍事的要求ハ臨時的、例外的性質ノモノナルコト、軍事行動ニ伴フ費用ハ我方ニ於テ負擔スベキコト、右軍事行動及費用ニ關スル細目ニ付テハ現地ノ日佛官憲間ニ極秘打合ヲ行ハシムベキコト等ノ諸點ヲ今朝大臣ヨリ提示セラレタル我方案文中ニ追加シ本件ヲ解決スルノ外ナント考ヘ居レルニ付至急右修正案（附屬第七號ノ一及二往翰案及來翰案佛譯文ヲ手交ス）ヲ本國政府ニ取次ガレ、政府說得方御盡力アリ度シ

佛國案ニ於テハ軍事問題ハ一切現地交渉ニ譲リ軍隊通過外ニ項目ニ關スル我方要求ニ原則上ノ承認ヲ與ヘ居ラズ此ノ點不都合ナリ又便宜供與ヲ佛印ト支那間ノ國境地帯ニ限定シ居ル意味如何

大使、東京州ト云フ如キ廣汎ナル地帯ニ付漠然ト便宜供與ヲ約スルガ如キコトハ不可能ナリ依テ左程狹カラサルモ國境ニ沿フ地帯ニ限定セル次第ナリ

日本軍ガ使用スベキ航空基地ニ於ケル警備部隊ノ駐屯ハ之ヲ承認シ得ズ

次官、斯クテハ佛國側ニ依ル便宜供與ハ殆ト意味無キコトトナル旁々我方案ニ依ルコトトシ度シ又經濟問題ハ別途處理シ度シ

大使、佛國側提案ハ日本側言分ヲ參酌シテ作成セルモノナレバ一日佛協定ヲ引用スルノ要アリ又經濟問題モ佛案ニ多少文句

佛側ニ於テ此ノ上解決ヲ遷延セララルルニ於テハ佛印ニ於テ
不測ノ事件ヲ生ズルガ如キコトアルトモ、^實ハ佛側ニ在リ
大使ノ兎ニ角御申出ノ次第ハ本國政府ヘ傳達スベシ

我々方ヨリ佛側ニ内示セル軍事上ノ具体的要求事項（八月二十一日
夜西歐亞局長「アンリ」大使會談）^二二十一日夜西歐亞局長在京佛
國大使ヲ往訪、本來軍事上ノ機密事項ヲ通報スルコトハ我方ノ欲
セサル所ナルモ佛國側カ我方軍事的要求ニ付我方ノ想像スル以上
ノ疑惑ヲ有セララルルコトカ二十日夜ノ會談ニ於テ觀察セラレタル
ニ依リ更ニ我軍當局ト協議セル結果佛國側ノ右疑惑ヲ解キ本件ノ
迅速ナル解決ヲ圖ル爲我方要求内容ノ輪廓ヲ特ニ佛側ヘ極秘内示
スルコトトナレリトテ左ノ如キ物ヲ^書手交シ之ニテ本件ニ關シ我方
トシテ爲シ得ルコトハ凡テヲ爲シ盡セルモノナルニ依リ此ノ上ハ
貴大使ヨリ右ヲ本國政府ヘ御傳達相成リ速ニ我方要求カ其ノ儘受
諾セラレンコトヲ希望スルノミナリト述ヘタルニ大使ハ右ヲ本國
政府ヘ傳達スベキ旨約シタリ

(イ) 日本陸海軍ノ使用スルキ「トシキン」州内飛行場ノ數

差當リ「ハノイ」 Hanoi 「フランチヨン」 Phatlang Thuong

及「フトウ」 Phutro 附近各一箇所ヲ常駐飛行場トシテ使用

ス但シ状況ニ依リテハ印支國境ニ近接セル他ノ飛行場ヲ使用スル

コトアルヘシ

(ロ) 「トシキン」州内ニ配置セラルヘキ日本軍兵力ノ概數

前記飛行場ノ整備ニ要スル部隊、右飛行場ヲ使用スル飛行部隊並

ニ右部隊及現ニ印支國境附近支那領内ニ在ル日本部隊ニ對スル補

給品等ノ輸送ニ關スル任務(右輸送ノ整備ヲ含ム)ニ從喜スル部

隊陸海軍計五、六千ヲ越ヘス

(ニ) 日本軍隊ノ「トシキン」州内通過線路

對支作戰ノ必要ニ應ジ「ハイフオン」 Haiphong

「ラオカイ」 Lao-kai ノ線ニ沿フ地帶並ニ「ハ

ノイ」 Hanoi 「ハノン」 Hanoi 「タンソン」 Tanson ノ線ニ沿フ地帶ヲ

日本軍隊通過ノ爲使用スルコトアルヘシ

右通過部隊ノ兵力(右部隊及之ニ對スル補給品等ノ輸送並ニ右輸

送ノ警衛ニ要スル部隊ノ兵力ヲ含ム)ハ前項(イ)以外トシ目下之ヲ

限定シ得ス

註一 日本軍隊又ハ補給品輸送ノ爲若シクハ輸送船警備ノ爲帝國海

軍艦艇若干隻ヲ「ハイフオン」 Haiphong ニ出入セシムル

コトアルヘシ

註二 専用電信施設無線ヲモトス(ハ當然右日本陸海軍ニ伴フモノ

トス

十一 交換公文案ニ關スル佛側第二次對案（八月二十五日大橋次官「
アンリール」大使會談）

八月二十五日「アンリール」大使大橋次官^{外務}ヲ來訪本國ノ訓令ニ依ル
趣ヲ以テ附屬第九號ノ如キ軍醫、政治並經濟問題ニ關スル佛側來
翰案ヲ提示シテ我方ノ承諾ヲ求メタルニ依リ次官ハ右案ニハ我軍
專的要求タル三項目（一）日本軍ノ使用スヘキ東京州内飛行場（二）右
ヲ使用スル飛行部隊、整備部隊並ニ右諸部隊及現ニ國境附近支那
領内ニ在ル日本部隊ニ對スル補給部隊等東京州内ニ配備ヲ要スル
日本軍兵隊（三）部隊ノ通商^{通商}（^{通商}）^{（通商）}ノ受諾スル旨ノ明記ナキヲ指摘シ
右明記方ヲ主張シタルモ大使ハ右ノ公文ニ明記スルコトハ佛國ノ
体面上不可能ナルモ現地交渉ニ於テ事實上之ヲ承認スルコトナ
リ居レル旨明言シ其ノ儘妥結方固執セリ
尙大使ハ交渉成立後ノ取極ハ極秘トシ發表セサルコトトシタシト
述ヘ次官ハ之ニ同意セリ

依テ軍側トモ協議ノ結果本件ノ迅速解決ヲ圖ル爲之ヲ承諾スルコ
トニ決シ右佛側來翰案ニ對スル附屬第九號ノ如キ我方往翰案ヲ同
日夜歐亞局長ヨリ大使ニ示セル處大使之ニ異議ナク爲念本國へ請
訓セリ